

宇治 市政だより

こども版夏休み特集

発行 宇治市
編集 文書広報課
京都府宇治市宇治郵便33番地
電話 22-3141

古くから文化の栄えた宇治



菟道東隼上り 瓦窯跡を見学

宇治小学校の歴史クラブ

私たちの住む宇治は、古くから文化の栄えた、歴史のあるまち。わが国の文化・歴史を正しく理解するうえで欠かせない数多くの文化財が残され

楽しい夏休みが始まりました。夏休み中は、家庭での生活が中心になります。家族のみなさんと相談して、生活

元気に夏休みを

会です。勉強や自由研究、読書、遊びなど、目標をたてることが大切です。そして、海や山へ行き自然に親しみ、

宇治市長
池本正夫

ています。埋もれた祖先の足あとをとたどることによって、私たちの郷土のあゆみを学び、知ること、現代に生きる私たちの生活を見つめ直し、これからのすばらしい世の中を作っていくために大切なことです。

ところで、去る六月二十二日の午後、宇治小学校の歴史クラブのみなさんが、菟道東隼上りの丘陵地で発見された飛鳥時代の瓦窯跡の遺跡を見学しました。当日は、池本市長も参加して、杉本宏宇治市文化財調査員から遺跡の説明をみんなで聞きました。

ふると宇治で発見された、わが国で最古の瓦窯跡を二、三面で見学しました。(写真は、隼上り瓦窯跡を見学する宇治小学校歴史クラブのみなさん)

去年の夏から、宇治市教育委員会が発掘調査をすすめていた隼上り瓦窯遺跡で、飛鳥時代(6世紀〜7世紀)の瓦などを焼いた窯跡三基と、瓦を造ったり、焼いたりする人たちが作業をした工房跡があることがわかりました。このような飛鳥時代の工房跡が窯といっしょに見つかったのは、わが国で最初のことです。作業内容や作業場の配置が解明できる重要な遺跡となりました。当時、瓦は必ずお寺に使われていたので、宇治のどこかに、飛鳥時代の寺院跡が人知れず眠っているかもしれませんね。



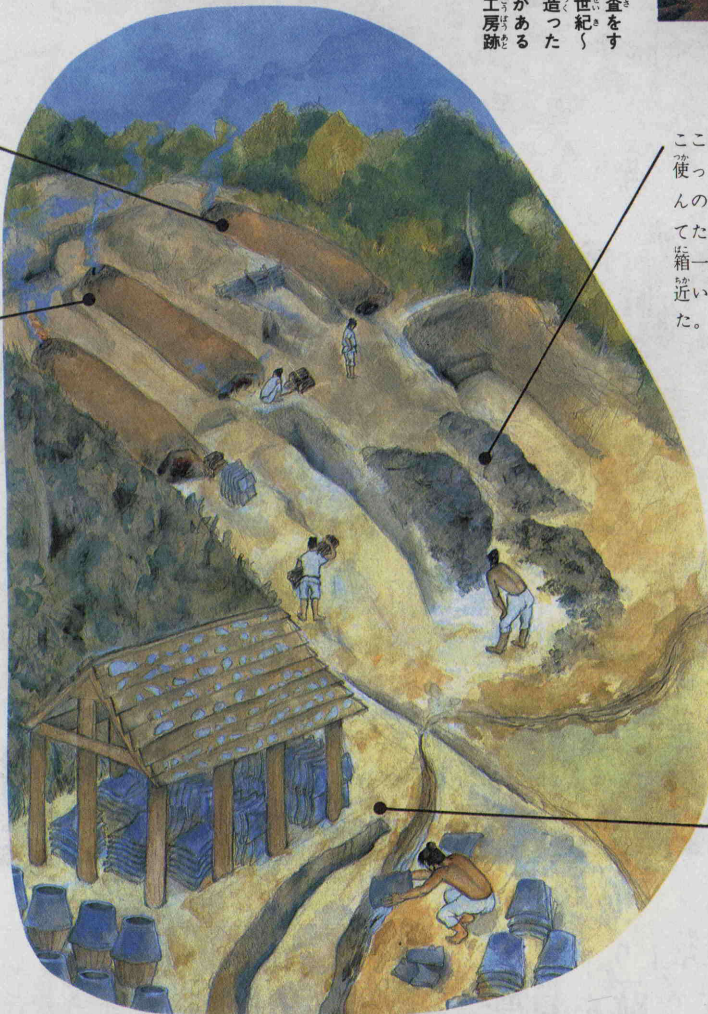
▲工房跡の風景

最古の瓦窯跡をさぐる―隼上り遺跡

ここは灰原といって、近くの窯で使った燃料の灰や炭とか、たくさんの焼け割れて壊れた瓦などを捨てた場所。発掘調査では、みかん箱一杯分位の容器に1,000杯分に近い瓦などの焼き物が出てきました。

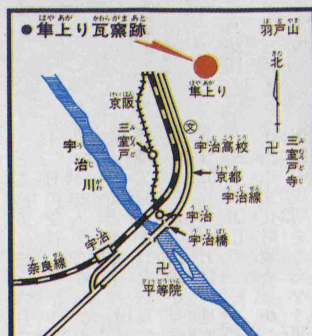
●瓦つくりの最適な地形
瓦をつくるためには、良質の粘土がとれることと、たくさんのたきぎと水が必要です。地質調査で、この粘土で十分に瓦が焼けることや、近くに小川があったことがわかりました。この場所は、瓦づくりに非常に良かったのでした。

当時の技術者が住んでいた家や、生産中の瓦や道具を置いた小屋の遺構(柱穴)が計7棟発見されました。このような遺構の状況は、ここが工房跡の一部であることを示しています。



▲隼上り遺跡の復元想像図

●瓦作りの工場―工房跡
瓦を作る技術者たちが住んだり、瓦や土器をつくる工場が必要でした。今でいえば、工場みたいなところを工房といいますが、谷から水をひいてきて池に水をため、粘土をこねたり、瓦を作ったり、焼きた瓦のいいものを選んで、お寺に出荷するようなことに使った場所だと考えられています。また、当時の家は地面に穴を掘って、そこに四角に柱を立てて、上に屋根をかけた、掘立柱建物というものでした。みんなここで生活していたのでした。



隼上り瓦窯跡からの出土品

●床面が階段状の1号窯
すでに、1号窯と2号窯のあらましが確認されました。1号窯は百済

瓦窯跡
だった順
られてい
現在発掘

2.5m、
大きな
瓦に、
横に寝
て、登
る号窯
はて

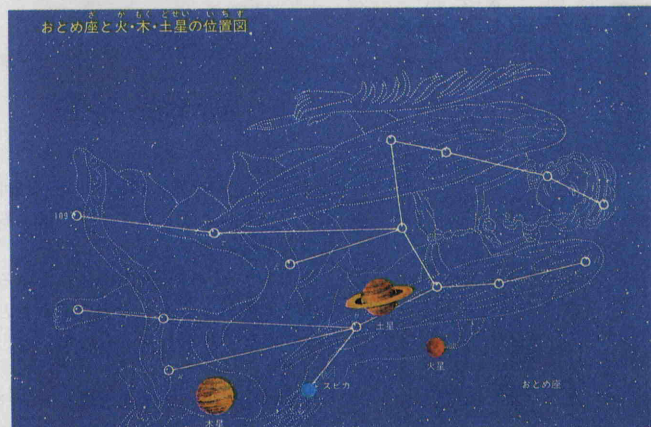
惑星が大集合



夏の宇宙科学教室



木星の表面、左側の大赤点の前の赤い衛星はイオ、その右にカリストが写っている。(ボイジャー1号から)

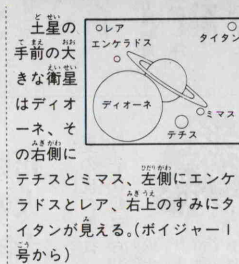
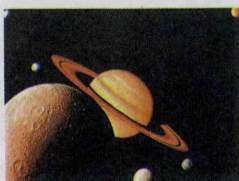


土星の輪は7重に

火星の表面は、温度がひくく、大気は二酸化炭素で赤茶けた砂ばくがひろがり、水は極地方だけにうすい氷やドライアイスとなっています。

木星の表面は、メタンやアンモニアの凍った雲がはげしい渦を巻いていて、赤い目玉（大赤点）は大きな台風の眼といわれています。赤い衛星イオには、火山が盛んに噴火し、木星にも輪があることなどが発見されました。

土星の輪は、新しく発見されたものをくわえると、全部で7重になっていて、細いリングが1,000本以上とりまき、それがレコードの溝のように1本につながっているのがわかりました。17個の衛星中タイタンだけが窒素の大気があり、他はすべて冷たい氷のクレーターの世界です。（文・京都市青少年科学センター 江上賢三さん）

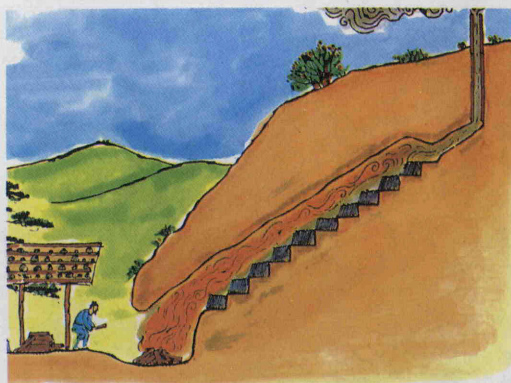


今年は、惑星が太陽の片側に集まる年です。中でも火星と木星と土星の3つは、まい夕、南西の空に明るく輝いています。いちばん明るくて大きいのが木星で、その右側におとめ座の青白い1等星スピカがあり、さらに右に色の赤い火星と、その左上に少し暗くて黄色い土星がならんでいます。（下の図）

火・木・土星を見よう

望遠鏡では、木星の表面に横向きに2本のしまようがあり、両側にはガリレオが発見した4個の衛星が見えます。土星の輪も美しく、これらは口径5cmで40倍程度の小型望遠鏡でよく見えます。火星だけは、もう少し大きい望遠鏡でないと表面の様子はわかりません。

木星と土星は、ボイジャー（無人の宇宙船）が接近して表面と輪、衛星などのすばらしい写真を送ってきました。火星はその前にバイキングが着陸しています。



▲登窯の復元想像図（「法隆寺」世界最古の木造建築から）

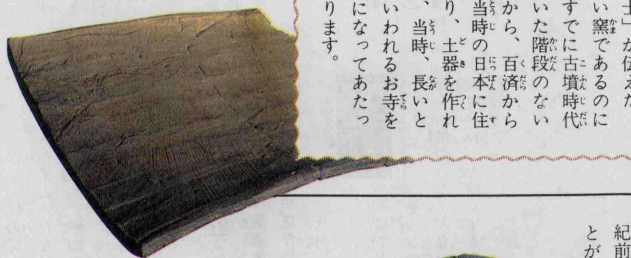


▲1号窯（上面から）

今見つかっているのは3基で、見つければ番号がつけられます。3号窯は調査中です。

1号窯は、長さ10m、幅が約2mものです。丘陵の中、ようどえんとつかしたみたいなき窯といます。その筋どなりにいます。

出土した平瓦。復元したら、長さが50×30センチ、重さは7kgにもなった。



かたは、お寺の床面が階段状の新しい窯であるのに、対して、2号窯は、すでに古墳時代からわが国で使っていた階段のない窯でした。このことから、百濟からの少数の技術者と、当時の日本に住んでいた窯を使ったり、土器を作れる人たちが動員して、当時、長いと五十年もかかったといわれるお寺を建てる大事業に、一諸になつてあつたらしいことがわかります。



出土した須恵器（平瓦）



出土した須恵器（高杯）



出土した高句麗系の軒丸瓦

紀前半（飛鳥時代）の遺跡であることがわかりました。

ふるさとむかし話

むかしむかしのことじや、宇治の山あいの池尾の里にりっぱなお寺があつてな、大勢のお坊さんがいたそう。

そのなかに禪珍さんというえらいお坊さんがいたそうじやがな、禪珍さんの鼻はたいそう長うてな、あごの下まで垂れ下がっていたということじや。

禪珍さんはな、その長い鼻をなんとか短くしようとお湯でゆでたり、弟子の坊さんに足で踏ませてみせたがな、

禪珍さんの長い鼻

鼻はいつこうに短くならんじや。
ご飯を食べるときには

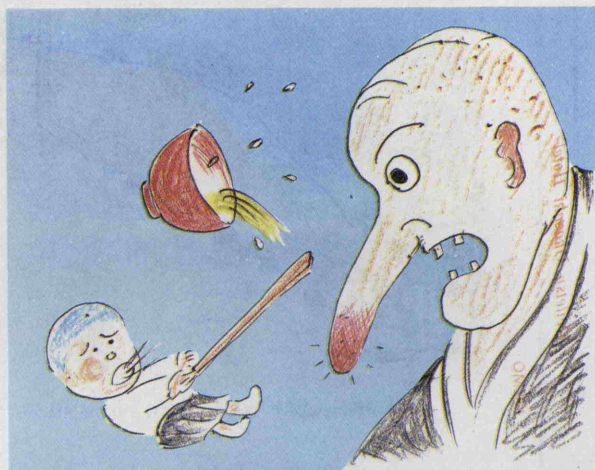
な、弟子の坊さんをおぜんの向こうに座らせてな、三十センチほどの細長い板で鼻を持ち上げて食べていたそう。

ある日の朝のことじや、禪珍さんがおかゆを食べていたときにな、いつものように鼻を持ち上げていた小坊主が、大きくなくしやみをしたそう。すると小坊主の手がふるえてな、禪珍さんの鼻は板から外れておかゆの中にボチャンとはまってしまったのじや。

鼻はあついわ、おかゆは飛び散るわ、大騒ぎじや。禪珍さんはかんかんにおこつて「バカめ、もしも自分の高い、貴い人の鼻だつたら、どうしておわびするんじや。おまえのようなやつは、あつちへ行け！」

叱られた小坊主はさつと逃げだしてな、隠れてから「こんな長い鼻の人は、禪珍さんだけです。よだから、よそではしくじりつこありませんよう」と、やりかえしたそう。そばにいた弟子の坊さんたちはこの小坊主の悪口を聞いてな、みんなで大笑をしたということじや。禪珍さんは気の毒じやな。

〈歴史資料室〉



夏休み親子見学会

夏休み、みなさんはいろいろな計画を立てていることでしょう。市では、親子見学会を行います。

参加できる人は、市内に住んでいる小学生とその親1名ずつです。ふるさと宇治をみんなで見直してもらいたいと思っています。

見学の場所は、宇治浄水場、沢清掃工場、そして炭山工芸村です。工芸村では、お皿などの絵付けを予定しています。

見学の日程は、8月3日(火)と4日(水)、2日間とも親子20組(40人)ずつと見学時間8時30分～15時30分の手定、昼食は各自で準備。雨天決行です。



宇治浄水場で(昨年)

応募方法

はがきに住所・名前・学校名・学年・保護者名・電話番号・参加希望日を書いて、7月26日(当日消印有効)までに、市役所広報係(〒611 宇治市宇治琵琶33)へ申し込んでください。多数の場合は抽選で決めます。

花火大会

夏の夜の風物、花火。八月十日(火)宇治川納涼花火大会があります。仕



で、打上花火は宇治橋周辺から見えます。点火時間は午後八時。保護者といっしょに行くようにしてください。

編集後記

美しい自然と古い歴史に恵まれたふるさと宇治。みんなにみつけ直して欲しいとの願いから埋蔵文化財をとりあげました。今回も、多くのみなさんのご協力で出来ました。お礼を申しあげます。

だれもしらない

灰谷健次郎作
(あかね書房)



まりこは、近所の人たちと心を通わせながら四十分のみのちのりを精一杯歩く。まりこの豊かな心を描いています。

ぼくひとりいけるよ

リアン・ムーア作
(偕成社)



あらいくまのりトル・ラクーンはおいしい

こうさぎけんたとホットケーキ

松野正子作
(童心社)



のけんたは、ホットケーキが大好き。森のみんなにホットケーキをやきます。ところが……

読書案内

原子の探検

かことし作
(偕成社)



物質をつくるもと、原子と分子。

夏のダイヤモンド

足尾のエースカガク作
(PHP研究所)



におかされた右足を不屈の努力と練習でまたえぬいた左足のエース島石正美。感動のノンフィクションです。

北の天使 南の天使

吉本直志郎作
(ポプラ社)



八月六日、いまわしい原爆で肉親を失ない、自らも傷ついた子どもたち助け合い、力強く生きる姿を描いています。